とちぎのボランティア・社会貢献活動や協働の取組みを応援する情報誌

ぽ・ぽ・ら magazine

2020 Winter
Vol. 31

特集

知らせたいことは何ですか？
＃市民活動に使える情報発信の小技ご紹介！

☆ニーズ別SNS大比較☆

情報発信ツールとしても活用できる
クラウドファンディング

協働ちょっといい話

とちぎ協働アドバイザー
大波龍郷氏

キラっとちぎ人

特定非営利活動法人植野たすけあい

情報発信特集

知らせたいことは何ですか？

☆ニーズ別SNS大比較☆

「自分たちの活動について、多くの人に知ってもらいたい！」、「限られた予算の中でイベント告知をしたい！」、「若者や女性に関わってほしい！」そんなとき、どのような情報発信ツールを選択していますか？

市民活動団体は、「よくわからない存在」のように見られがちですが、ひとつの社会問題に対してずっと見続けているというのは、実はＮＰＯならではの強みです。普段の活動や課題について、随時適切な情報を発信していけば、社会を一歩ずつ変えるためのきっかけを作ることが出来ます。

今回はその情報発信のコツについてご紹介します。

情報発信を行う際の大前提として、「情報の受け手はどのようなツールや手段を使用しているのか」を考え、相手に合わせることが大切です。

ネット上でつながりを創り出せるサービスの総称である「ＳＮＳ」。しかし、一口に「ＳＮＳ」と言っても、特性は様々です。それぞれの特性に合わせた方法を選択し、それらの特性に応じて情報発信の仕方を工夫したうえで、支援者やボランティア獲得を目指しましょう。

	Facebook	Instagram	Twitter	You Tube
活用例	 イベント情報の発信 シトラスリボンINとちぎ	 ママさんをターゲット層とした活動及び広報物紹介 NPO法人自然史データバンクアニマnet	 コミュニティカフェのフォロワー獲得キャンペーン コミュニティカフェおおぞら	 野外活動動画で農業体験者募集 NPO法人いちかい子育てネット羽ばたき
特徴	・実名性が高くリアルなつながりを反映 ・ページや投稿を共有範囲内でコメント、「いいね！」、シェアが可能 ・イベントページを作成可能 ・記事内容の自由度が高い	・視覚的に訴求 ・写真の加工機能があるので、簡単におしゃれな写真が投稿できる ・雑誌感覚で見られる ・投稿をシェアする機能は無い	・短文のコミュニケーションツール ・気軽にリツイートでき、拡散される人数も多い ・拡散速度が早い ・興味関心でつながる	・リンクや他のSNSでシェアしやすい ・動画投稿に特化しているため、他のSNSよりも鮮明で高画質、長時間の動画投稿に向いている。 ・動画の再生時間数に比例して広告収入を得られる
投稿形式（適しているもの順）	文字+画像/動画 リンクのシェア	画像または動画+文字	文字（日本語：最大140文字）+画像（４枚）/動画/リンクのリツイート	動画+文字
主なユーザー層	30代以上が過半数を占める 40代～男性ユーザーが多くなる ユーザーの年齢層が広い	若年層、特に女性の利用が多い	10代～20代が約半数 やや男性ユーザーのほうが多い	日本の人口に比例する年齢分布 男女比もほぼ半々 20代以上の年齢層の人々が視聴
ぽ・ぽ・らからの一言コメント	・「シェア」及び「リツイート」：インターネットで見つけた記事や投稿を、自分のSNSアカウントを使って情報を拡散することを指します。 ・投稿をすることで多くの人に情報が拡散できる一方で、一旦投稿が拡散してしまうと取消しができないため、内容には注意が必要です。 ・他人の投稿を拡散する場合には、内容の真偽が分からないものを拡散しないように注意しましょう。 ・「SNSの乗っ取り」：何者かがSNSを使って、あなたのアカウントを乗っ取ることをいいます。 他人にID・パスワードを教えない、推測されにくいパスワードを使用するなどの対策をとりましょう。 （各SNSのホームページでは、アカウントの乗っ取りに対する対処法が示されています）			

押さえておきたい情報発信のポイント

～発信を行う前に情報の整理をしましょう～

1．何を目的に情報発信をするか？
2．どのような層に見てもらいたいか？
相手のライフスタイルを具体的にイメージします。
-年齢層
-属性
-好きなもの・こと
-友人関係等

3．情報発信ツールの用途は何か？
-情報発信のため？
-コミュニケーションのため？

「 ＃ （ハッシュタグ）」を活用しよう！

TwitterやInstagram、そしてFacebookに投稿をする際、「＃（ハッシュタグ」をつけることにより、関連する投稿を見つけやすくなります。
注意点としては「＃〇〇」の前後にスペースを入れる必要があります。
例）「＃ママさん募集　＃手仕事好きな人と繋がりたい　」

～色々な人のSNS投稿を見て参考にしてみましょう！～

☆おすすめテクニック☆　SNSと併用して、プレスリリースを活用するという方法もあります。

実践者に聞く！
情報発信とクラウドファンディングの関係

多世代の力を生かしたまちづくりと、高齢者の孤立解消を行う、「一般社団法人えんがお」の濱野代表にこれまでの実践とその戦略について伺いました。

ぽぽら：えんがおにとってのクラウドファンディング(以下CF)とは、どのようなものですか？

濱野：CFと言っていますが、目的は資金調達することではなく、仲間を集めることです。

仲間を集めるとは？

CFを行った方は、その後も私たちの活動を気にかけてくれています。その方たちが継続して関わり続けていけるように、寄附プロジェクトを用意しています。

寄附者として関わる人はどんな層？

30代、40代、50代が多いです。「活動には参加できないけれど、応援しているよ」という人たちです。

寄附プロジェクトを行う上で気をつけていることは？

必要に応じて半年以上の期間を空けて実施するようにしています。半年の間に情報発信を行って、(新規)ファンとなった方へ「会員としての活動はハードルが高い」から、「寄附プロジェクトなら応援できるかな・・」という入り口として用意しています。

これからCFを始める方へ一言お願いします。

CFには「信頼」が重要です。自分たちが社会に必要な活動を行い、その活動を伝える。伝えた先にCFがある。この流れは、大切にしてほしいです。

一般社団法人えんがお

資金調達と情報発信として「CAMPFIRE」を活用し100万円を目標のところ130％を超える支援を得る。「みんなの家プロジェクト」や「看板プロジェクト」など、参加型の寄附プロジェクトを実践。

HP:https://www.engawa-smile.org/

ぽ ぽ ら 広 場

ぽ･ぽ･ら広場では、活動報告やお知らせなど様々な内容を紹介します。

◆相談事例紹介　法人格の違い◆

ぽ･ぽ･らには、「法人化したいが、どの形態が良いのか？」という相談が多く寄せられます。
主な3つの法人形態の違いを整理しましたので、ご自分の活動に合うのはどれか、参考にしてください。

法人格	任意団体	特定非営利活動法人（NPO法人）	一般社団法人	
			非営利型	その他
根拠法	なし	特定非営利活動促進法（通称：ＮＰＯ法）	一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（通称：一般法人法）	
目的事業	任意	公益の増進に寄与する、主として特定非営利活動を実施	目的や事業に制約はなく、公益事業、収益事業、共益事業等可	
設立方法		所轄庁の認証後に法務局で登記	公証人の認証後に法務局で登記	
理　事		理事３人以上	理事３人以上	理事１人以上
監　事		監事１人以上	監事は任意（理事会設置法人、会計監査人設置法人は必置。）	
社員数（設立時）		社員１０人以上	社員２人以上	
社員の入会制限	特に規定なし	不当な条件を付さないこと	特に規定なし	
所轄庁	なし（報告義務なし）	あり（報告義務あり）	なし（報告義務なし）	
法定設立費用	なし		公証人の定款認証手数料：５万円 登録免許税（登記費用）：６万円	
税制等	収益事業課税			全所得課税

情報発信ツールとしても活用できるクラウドファンディング

クラウドファンディングでの資金調達って簡単にできるの？どのように始めたらいいの？などで、二の足を踏んでいる方もいらっしゃるのではと思います。そこで今回は、目からウロコの、クラウドファンディングを情報発信ツールとして活用するためのポイントについて、「CAMPFIRE」のサポートを手掛ける（株）モンキークルージャパン奥山直和さんにお話を伺いました。

★そもそもクラウドファンディングの成功とは？

目標金額の達成が成功ではありません。成功とは「成し遂げたいことの実現」です。そこに到達する手段であり通過点がクラウドファンディングです。達成しなければ費用が発生しないものもあるので、何回でも同じ内容でチャレンジできます。アクセス数やアクセス経路などから失敗原因を分析できるので、次回に活かすこともできます。さらに、失敗しても悪い印象を与えるわけではありません。活動の内容を多くの方に知ってもらったり、共感してもらうことにもつながります。つまり、PRとしての効果も期待できるのです。

クラウドファンディングの3つの種類

購入型 NPOにオススメ！	モノやサービスなどのリターンを提供するので、リターンの魅力が必要かつ団体の活動に関連するものが望ましい。団体とのつながりができ、ファンの育成につながる。①All in（未達でも到達した金額分はもらえるが、リターンが必須）、②All or Nothing（達成した場合のみ全額をもらえる）の2種類がある。
寄附型	ボランティア活動や社会的弱者への寄附。認定NPO法人等は寄附控除あり。
金融型	企業や起業家からの投資が主で、配当や利息を支払う。金融庁の免許が必要で、目標額が高額のケースが多い。

クラウドファンディング公開の流れ

目　的	目的を明確に
申　込	CFサイト制作会社に申込
担当者決定	制作会社の担当者が決まる ２人3脚で制作していく
制　作	何をしたいか、なぜしたいか、これをするとどんな良いことがあるか、誰が担当するか（通常３～5人のチーム編成）を決めていく スケジュール管理が大切 画像や動画を活用しよう
公開直前	知り合いに「始めるからよろしくね！」のお願い
公　開	レポート投稿（最初の1週間は毎日、その後週に２，３回程度） ＳＮＳでシェアし、ＣＦページへ誘導する 途中でイベントでチラシを配るなどのＰＲ活動を行うとより効果的
結果は？	資金獲得！

★奥山さんに聞く！
NPOのためのクラウドファンディング活用のポイント

●これまでに成功した皆さんの特徴は？

奥山氏：「成し遂げたいことに熱量を込めて手間をかけられる、プロジェクトの内容が人にとって良いものである、コアなファンが多い」ということですね。

ぽぽら：想いと覚悟、やる気が重要ということですね。独りよがりではなく、誰かの役に立っているという信念も重要ですね。

●皆さんはどのように活用していますか

奥山氏：資金調達のみならず、ＰＲツールやファンづくりとして活用しています。マーケティングの法則（市場調査、ターゲット設定、共感してもらえるプロジェクトの内容、プロモーション）がまさに活かされます。

ぽぽら：情報発信に苦労している皆さんにとって、クラウドファンディングは実は有力なＰＲツールなのですね。しかもプロの担当者さんがアドバイスをくれるのですから、心強いです。自団体の活動の振り返りにもなりそうですね。

●チャレンジする際の注意点は？

奥山氏：資金が自然に集まるわけではありません。「集まる」のではなく「集める」意識が必要です。多くの人からお金をいただくのですから、手間をかけるのは当然、覚悟をもって真剣に取り組むことが大切です。その先に、ハッピーになる人が必ずいること。購入型の2種のうち、All inの場合は未達でもリターンが必須になるので、持ち出しになる可能性があります。どちらにするかは慎重に選ぶとよいです。

ぽぽら：クラウドファンディングは簡単に資金集めができると思われがちですが、実は大変な労力が必要なのですね。やはりその労力の源となる熱量や覚悟がどれだけあるかが成功の秘訣ということですね。

自分たちの活動や目標に信念を持ち、それをどのように伝えればよいかを客観的・俯瞰的にみて、わかりやすい言語で伝えるとよいです！我々がサポートします！

資金調達のみならず、ＰＲとしての効果も期待できるクラウドファンディング、皆さんもチャレンジしてみませんか？

奥山さん、本日は貴重なお話をありがとうございました。

●問合せ：（株）モンキークルージャパン　住所：宇都宮市伝馬町4-17 ユニオン・フラッツ1Ｆ　E-Mail:.info@os1-commit.com

協働ちょっといい話

とちぎ協働アドバイザーの「協働」について紹介します。

地域の人と自然とともにあるまちづくり

とちぎ協働アドバイザー
合同会社山々と星々
大波龍郷さんに聴く

■蔵の街のまちづくり

栃木市は、蔵の街並みを活かしたまちづくりに平成初めから取り組み、行政や市民が大きな枠組みで協働し、進めてきた。現在は、江戸時代、明治、大正、昭和の風情を醸し出し、多くの来訪者を迎えている。この街並みの中で、大正時代の洋館を利用したカフェ、パーラートチギがある。建物は栃木市が所有し、合同会社山々と星々が運営してきた。蔵の街に溶け込み、市民や旅人が憩いのひとときを味わう場として、蔵の街の貴重な存在となっている。

パーラートチギ店内

■地域の人と自然とともに

取材には、合同会社山々と星々代表の大波龍郷氏が応じてくれた。爽やかで柔軟な印象の青年で、とちぎ市民活動センターくらしスタッフ兼指定管理者「NPO法人ハイジ」の代表理事でもある。

曰く

カフェでは主に栃木市内の生産者（農業者や製造業者）と地域住民の方から食材を直接仕入れている。これからは、商品の開発・販売とともに生業づくりにも取り組んでいきたい。蔵の街の商業が発展してきた背景には、周辺地域に農産物や日用品を生み出す生業が豊かにあり、その素材となる草木や作物、それらを育む土や水までも大切にして生きる人たちがいたからだと感じている。そのような世界観を大切にしたい。

商品の例では、栃木市産の茶葉で作られた焙じ茶をカフェで提供しているが、茶葉の量り売りも好評で、手土産として利用してもらえるよう焙じ茶のティーバッグと珈琲のドリップバッグをセットにした商品（箱入り・袋入り）を販売している。

地元杉のテーブルと
珈琲と焙じ茶セット（箱・袋）

栃木市は足尾へと連なる山々を見渡すことができる土地。草木や生物、岩石や火山灰、幾筋もの沢の流れ、そうした山々のめぐみがこの地の土や水となり、生業の豊かさを育んできた。

素材から商品を生み出す過程には、栽培・加工・販売など多くの人の手と手を合わせていく必要がある。今は流通の発達とともにそれらが遠のいて分散してしまっている。それらの合わせ方を工夫さえすれば、地域にある資源をよりよく活かすことができる。たとえささやかなものであっても、地域で形づくれる価値を手渡すようにつないでいくことで、目に見える自然や人との関わりの中で喜び合えるような、日常のあたたかな関係を紡いでいきたい。

大波さんのお話を聴きながら、やはり、まちづくりでは、小さなことや、すぐには利益を生まないように見える物でも、愛情を持ち、大切にすることが必要だと深く再認識した。

協働事例
生産者×高校生×合同会社山々と星々

●栃木市の資源開発と商品化

①地場の杉を伐採・製材して家具や木樽を製作。地場産の木樽・大豆・糀をセットにした手前味噌キットを販売予定。（林業者×農業者×木樽および糀の製造業者）

②地場で栽培した箒草を用いた箒を製作。箒づくりを体験するワークショップを実施。（栃木農業高校×農業者×市民×箒の製造業者）

●高校生

栃木農業高校生が箒草の栽培方法を研究しながら箒づくり体験のワークショップを実施。とちぎ高校生蔵部とOBOG会も協力。地場産の箒づくりを通して栃木市の資源と生業を学びながら需要をつくり、次代につなげていこうとする取組み。

パーラートチギでの箒づくり体験

●問合せ：パーラートチギ　住所：〒328−0037　栃木市倭町11-4　TEL：0282-25-7700

キラっとちぎ人

県内で活躍する人やNPOの取組みを紹介します。

子育てにやさしい地域づくりを

特定非営利活動法人野うさぎくらぶ
理事長　矢口和美さん

晴天の下、冷たい風に落ち葉が舞う秋に、那須烏山市にある野うさぎくらぶ（以下「法人」）の事務所を訪ねた。理事長の矢口さんは、メンバーとともに親子のヒアリングから戻ったところ。多忙な中を私たちの取材に応じてくださった。

同法人は、現在、市内5か所の小学校に設けられている放課後児童クラブの運営を中心に、「子ども」と「子育て」の目線から、まちづくりのための様々な活動を行っている。きっかけとなったのは、平成16年、幼稚園児の子どもをもつ5人の母親が、近くに公園や児童館がなく、高根沢町の「児童館きのこのもり」に週1回通ったことから。そこでNPO法人ゆめの増田茂さん（現在エコ・ハウスたかねざわ）に出会い、「活動の場を公に開くことが大切」とのアドバイスを受け、荒川体育館の学童室を拠点として活動を開始し、「子育てが孤独にならないためには、点と点をつないで、皆と一緒にやっていきたい。」との目的に向かって、ワークショップの数を重ねて実施した。

平成22年4月からは、市からの委託による放課後児童クラブ事業を開始し、支援対象を5学童から9学童へと広げている。

また、法人は、地域や学校とも連携し、「浜やん塾」や「烏山学」、「OOGANE木漏れ日マーケット」などの幅広い活動を実施し、昨年の台風19号被害の際には、「なすから復興支援センター」の活動支援にも尽力した。

今年度は、コロナ禍における孤立化を防止する「ひとり親応援事業　心から～」に取り組んでいる。矢口さんは、「子どもや親が一人で悩まず、つながれる場があれば、ひいては出生率の向上にも反映される。」と語る。

活動の原動力となっているものは、「子どもは地元で育てることが一番良い」という、人や地域への熱い想いなのではないだろうか。

コロナ禍でマスク姿のメンバー

●問合せ：NPO法人野うさぎくらぶ　住所：〒321-0517　那須烏山市東原11番地1　TEL：0287-83-8308

安心を地域に届ける

特定非営利活動法人
植野たすけあい

佐野市植野地区公民館に事務所を構える「特定非営利活動法人植野たすけあい」（以下「法人」）は、旧佐野市内（32、000世帯）をカバーし、明るく住みよい地域社会を作り、地域に即した福祉の増進を図ることを目的とする法人である。

法人立ち上げのきっかけは、「介護予防・日常生活総合支援事業」の担い手として地域に期待が高まってきたことにある。自治会の役員でもあり、地区社協の役員でもあった現法人の役員は、「町内の人員だけでは担い手が足りない。各地域が助け合えば広い地域でも活動できる」と、旧市内のリーダーたちが力を合わせ「介護予防・日常生活支援総合事業訪問型サービスB事業」を始めた。

平成30年7月から事業を開始し、組織の健全な運営と持続可能性を求め、令和2年4月からNPO法人として活動している。

団体立ち上げ時からの「助け合い事業」は384件（令和2年10月）の要望に応え、事業を支える登録ボランティアは74名に至る。

事務局を務める塚田さんは、「ボランティアが出来る時間に、出来ることで活動してもらっている。そのため、ニーズはまだまだある。ボランティア登録者100人を目指す。」と意気込む。

また、新規のボランティアに活動を知ってもらう機会や、心構えを学ぶ機会を設けるなど、担い手の育成にも力を入れている。法人化の際に、新規事業として「安心電話」活動を始めた。これは、週に1回定期的に法人から独居高齢者宅へ電話を掛けるもので、「話し相手ができて嬉しい」などの本人からの声のほか、「安否が確認できて安心」と遠方に住む家族からも好評である。今後は他の地区社協との連携や、外出支援を担う団体間の連携を作り、面的つながりを広め、ボランティアによる安心を地域に届けていく。

右：塚田さん
左：森田さん

主な助け合い事業

- 病院や買い物等の外出支援
- 蛍光灯や電球の交換
- 自転車のパンク修理
- 庭の草取り
- 散歩や話し相手　　など

病院への送迎風景

●問合せ：特定非営利活動法人植野たすけあい　住所：〒327−0836　佐野市寺中町2297番地1　TEL：0283-55-5202

県からのお知らせ

１月17日（日）は「防災とボランティアの日」
１月15日（金）～１月21日（木）は「防災とボランティア週間」

平成７年１月17日に発生した阪神・淡路大震災において地域の防災組織や全国から集まった多くのボランティアが活躍したことをきっかけに１月17日が「防災とボランティアの日」、１月15日から１月21日までが「防災とボランティア週間」と定められました。

本県においても昨年10月の東日本台風や平成27年９月の関東・東北豪雨では、県内外から多くのボランティアの方々にご支援いただき、復旧・復興の大きな力となっています。

皆さんも、これを機に家庭や地域でできる防災、助け合いについて考えてみませんか。

「令和２年度災害ボランティアセミナーin栃木」の開催について

日時：令和３年１月21日（木）13：30～16：00
場所：とちぎ生きがいづくりセンター講堂（とちぎ健康の森内）
定員：200名（先着順）
講演①「地域連携による災害に強いまちづくり」
　講師　減災と男女共同参画研修推進センター
　　共同代表　浅野　幸子氏
講演②「コロナ禍における災害支援のボランティア活動について
　（熊本地震と令和２年７月豪雨の違い）」
　講師　くまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）
　　代表　樋口　務氏

お申込みはこちらから
※申込期限：１月14日（木）

【問合せ先】県民文化課県民協働推進室
TEL：028-623-3422

ぽ・ぽ・らからのお知らせ

ただいま、おかえりを言いあえるまちに みんなで広げよう**シトラスリボンプロジェクト**

愛媛発

シトラスリボンということばや、リボンを身につける方を見かけるようになりました。皆様はシトラスリボンプロジェクトのことをご存じですか？
シトラスリボンプロジェクトとは、シトラスカラー※のリボンやバッジを身につけ、コロナ禍で生まれた差別、偏見ではなく「ただいま」「おかえり」と言い合える、みんなが心から暮らしやすいまちにしよう、という共感を広げる取組みです。リボンやロゴで表現する3つの輪は、地域と家庭と職場（もしくは学校）です。
栃木県内では、栃木県社会福祉協議会の「いちごハートねっと事業」も、この取組みに賛同しています。シトラスリボンは自分で作ることも出来ます。シトラスリボンを身につける人が多いまちは、コロナにかかった人も安心して暮らせるまちとなるでしょう。あなたもそんな思いでシトラスリボンを身につけてみませんか？

※シトラスカラー：このプロジェクトは愛媛発祥。愛媛特産の柑橘にちなんでの柑橘色です。

プロジェクト詳細とリボンの作り方はこちらから

～「ぽ・ぽ・ら」基本情報～

開館時間　火～土曜日　９：00～17：00
休 館 日　日曜日・月曜日・祝日・年末年始
駐 車 場　付帯駐車場７台(障害者等優先)
　県庁地下駐車場（２時間まで無料(除く県庁閉館日)）
　駐車券を事務室までお持ちください。

住　　所　〒320-0032
　栃木県宇都宮市昭和2丁目2番7号
ＴＥＬ　028-623-3455　FAX 028-623-3465
Mail　popola@tochigi-vnpo.net
HP　https://www.tochigi-vnpo.net/

管理運営団体　NPO法人とちぎ協働デザインリーグ

■編集後記■コロナ対策に追われ、生活様式も変わらざるを得ない日常となりました。オンライン講座が増え、どこからでも参加でき、移動時間も不要という便利さを実感されている方も多いのではないでしょうか。ぽ・ぽ・らでも、「zoom会議を開きたいので方法を知りたい。」等のご相談が増えています。今号では多様なSNSツールを特集しました。安全に使いこなす一助となれば幸いです。